

平成 23 年度札幌市アイヌ施策推進計画に係る検証評価(案)

平成 25 年 3 月

札幌市アイヌ施策推進委員会

札幌市アイヌ施策推進計画（以下、推進計画という。）は、平成 22 年 9 月に策定され、通年を通じた事業期間としては、平成 23 年度が初年度にあたる。

推進計画では、「アイヌ民族の誇りが尊重されるまち」の実現を目的に掲げ、3つの施策目標（「市民理解の促進」、「伝統文化の保存・継承・振興」、「生活関連施策の推進」）のもとに具体的な施策を位置づけている。

札幌市アイヌ施策推進委員会は、平成 23 年度札幌市アイヌ施策年次報告書（以下、年次報告書という。）の報告等を踏まえ、当計画の実施状況に関する評価と今後求められる取組について以下のように取りまとめた。

第1 市民理解の促進

年次報告書によれば、市民理解の促進に関する事業が施策全体の中で高い割合を占めており、札幌市として重点的に進めている状況がうかがえる。

特に、札幌駅前通地下歩行空間における「札幌の地名とアイヌ民族」紹介コーナーの設置や各種イベントの実施、アイヌ文化交流センターにおける小中高校の生徒を対象とした「体験プログラム事業」の実施をはじめ、アイヌ民族の伝統文化を身近に感じることができる取組を相当数実施していることは評価できる。

ただ、「市民理解」を進めるに当たり最も重要なことは、アイヌ民族の歴史や先住民民族とは何かという基本的な事柄を理解することだと考える。

この理解を進める手法として、学校教育における関連授業の充実などが有効であると考え、これらの役割を担う教員に対する効果的な研修制度を整備するなどの課題も残されており、今後の施策の展開に注目していきたい。

○今後の取組

- ・公共空間における情報発信や「体験プログラム」については、さらなる拡充を求める。
- ・形式にこだわらない啓発活動の場の積極的な活用を進めるべきである。
- ・ラッピングバスなど各施策に対する市民の「声」を聞く方法や費用対効果の視点からの改善などについては、今後の課題として検討されたい。

第2 伝統文化の保存・継承・振興

アイヌ民族の伝統文化を後世に伝えていくためには、現存する文化的所産や遺跡などを保存・継承するとともに、これらに基づくアイヌ文化の発展を図ることが重要で

あり、あわせて、これらを市民に持続的に紹介し、その理解を深めるための取組が不可欠である。

このような取組については、アイヌ民族自身の努力に俟つところが大きいことは言うまでもないが、インカルシペ・アイヌ民族文化祭やアイヌ文化交流センターでの諸事業など、札幌市としての取組は、アイヌ伝統文化の保存伝承などに寄与していると評価できる。

アイヌ文化の保存・継承・振興を進めることは、札幌市の多様な文化の発展にも寄与し、豊かなまちづくりにつながるものであることから、今後、更なる取組の充実が必要である。

○今後の取組

- ・アイヌ伝統文化の保存・継承・振興の拠点であるアイヌ文化交流センターの一層の有効活用に努めるべきである。
- ・市内連携などを通じて、アイヌ民族の伝統文化が次世代に着実に継承されていくことが望まれる。

第3 生活関連施策の推進

年次報告書によれば、アイヌ民族の社会的・経済的地位の向上を図るため、札幌市の取組として、住宅新築資金等貸付事業や生活相談員、教育相談員による相談事業などが行われており、また、産業振興施策として、札幌駅前通地下歩行空間における民芸品の展示販売スペースの設置が試行的に行われている。

推進計画に掲げる生活関連施策の数は限られているが、アイヌ民族の所得の低い生活実態や教育格差などに鑑みると、今後とも持続的に生活関連施策を推進すべきであるとともに、生活基盤を確保するための産業振興施策の充実を、国や北海道など関係機関・団体と連携しつつ図るべきである。

○今後の取組

- ・アイヌ民族の教育面での格差を改善するため、就学支援の充実などが望まれる。
- ・生活関連施策全般について、積極的な施策展開を図るべきである。

最後に、冒頭に掲げた「アイヌ民族の誇りが尊重されるまち」の実現に向けて、札幌市においては、国や道をはじめ関係機関や団体と連携協力し、今後、より積極的に各施策を推進されることを期待する。